

# 会 議 録

会議の名称		令和7年度第3回守谷市地域公共交通活性化協議会		
開催日時		令和7年8月8日（金） 開会：午後2時　閉会：午後5時15分		
開催場所		守谷市役所 議会棟1階 大会議室		
事務局(担当課)		都市整備部 都市計画課		
出席者	委員	佐野委員、有原委員、佐藤委員、小路委員、椛澤委員、爲我井委員、中島委員（会長）、寺田委員、宮野入委員、泉委員、小菅委員、柿本委員、根本代理、小堀委員、服部委員、廣瀬委員、石塚委員、浅野委員 <div style="text-align: right;">以上 18名</div>		
	市職員	笠川課長、岡本補佐、末森係長、中山主任、中野主事 <div style="text-align: right;">以上 5名</div>		
公開・非公開の状況		<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	5名
会議次第		1 開会 2 会長あいさつ 3 副市長あいさつ 4 議事 (1) 協議事項 議案第1号 バス路線の実証運行（案）について 議案第2号 乗合バス等の運賃を協議するための協議体について 議案第3号 協議運賃について 議案第4号 委託業務の発注について（今後のスケジュール等） [非公開] 議案第5号 令和7年度予算の補正（案）について [非公開] 5 その他 6 閉会		
確定年月日		会議録署名		
令和7年9月29日		中島 伸一		

## 審 議 経 過

1 開会

2 会長あいさつ

3 副市長あいさつ

4 議事

(1) 協議事項

●議案第1号 バス路線の実証運行(案)について

【事務局から説明】

○意見・質問等

爲我井委員：今回の高野地区、同地・赤法花地区のバスルートは、以前運行されていたルートと同じなのか。

事務局：平成31年3月末まで運行していたモコバスのルートと高野地区は同じで、同地・赤法花地区はほぼ同じルートである。

爲我井委員：高野地区は住居がまとまっている一方、同地・赤法花地区は道路沿いに住居が点在している。高野地区のモコバスが廃止になった原因は、利用者が少ないからということであった。今回のバスルートは高野小学校前の県道を通る点で以前と変わりがない。高野地区の利用者は主に高齢者で、若い方は車を利用しているため、以前のルートでは利用者の増加は見込みにくい。高野地区を走行する時間が多くを占めていると思われ、利用者(特に高齢者)が長時間バス内にいる状況になる。高野地区から、買い物スポット(ジョイフル本田、イオン、アクロスモール)までは目と鼻の先であり、効率的ではないので、放射状のルート変更案を提案したい。具体的には、高野小学校から内側へ入り、本宿の交差点から、ふれあい道路を通り、鈴塚の交差点から七福神方面へ戻るルートで、買い物利用に適していると考えられる。また、今回のルートに、野木崎郵便局経由が含まれているが、その経路設定の目的について確認したい。

事務局：軸道と野木崎郵便局の間はバスが走っていないので、このルートを提案させていただいた。

爲我井委員：松ヶ丘7丁目から、アクロスモールのところに行けると思う。このルートで実証実験をやったときに、また、利用がないのでこのルートはできませんでしたという結論になってしまっは困る。

事務局：現在バスが通っていないが、以前通っていた区域のカバーを最優先課題と捉えている。利用促進のため、居住者だけでなく買い物利用者も取り込めるよう、ルート上に買い物施設を多く結ぶ一筆書きのルートを考えた。バス車両の確保の課題については、関東鉄道と協議し、小型バス2台を確保していただいたことで、右回り・左回りを提案した。一周の所要時間は約55分だが、行きと逆回りのルートを使って戻る利用を想定している。実証実験として、

急ぎ事務局案を策定したが、鈴塚の坂道等の通行可否を確認し、必要に応じてルート変更ができるかも検討していきたい。

爲我井委員：実証実験では、利用者が実際に乗車してくれることが不可欠である。また、買い物利用が見込める施設をルートに含むことが重要である。不便な地域の住民本位でルートを設定しているとのことなので、再考していただければと思う。

事務局：一番の課題は、県道からふれあい道路側へ抜ける区間の田んぼを降りるあたりの一番下がったところで、バスが通行可能かどうかの確認である。

浅野委員：カーブで下がっているので、車両の下を擦ってしまう恐れがある。運行の安全確保ができなければ通すわけにはいかない。以前走っていた路線であれば、比較的早くできると思うが、そこはこれまで路線としてないので、最初から考察する必要がある、早期の運行開始は難しいと思われる。

爲我井委員：利用者がいないとなった場合に、バスはいらぬということも避けてもらいたい。30人は乗らないので、車両の大きさや幅も考えなくてはならない。

事務局：車両の大きさは、関東鉄道が所有する一番小さい車両である。廃止の理由であった、乗らないとなくなってしまうのではないかとこのところを気にされていると思うが、まずどれくらいの利用があるかを確認することが必要である。それから、ほかの交通形態の利用を考えていかななくてはならないと思う。他の送迎事業への混乗や、ワゴン車をバス停方式で回すことなど、今回の交通計画の策定の中でも新たな移動サービスとして考えていかななくてはならない。許認可等のスケジュールを考慮に入れ、まずはこのバスを動かしていきたい。

小路委員：地域の方で話し合っ、て、どういうニーズがあるか、どういうルートなら使いやすいのか、十分議論した上で決定することが必要である。

事務局：地域の方の必要性が大事であるが、車両の問題などから、現時点で運行可能かどうか回答できない。可能であればそこを通るルートも検討する必要があると思うので、委員と相談させていただきたい。

佐野委員：守谷A地区では、みずき野のいちょう通りや学校前にでてくる方も多く、この新設はとても嬉しいことである。以前から、愛宕と奥山の通りにバス停があったらいいと思っていた。奥山本田のバス停の設置場所は決まっているのか。

事務局：バス停間の中間を考えているが、住宅のはりつきや、道路の状況により、バス停が設置可能な安全を確保できる場所を考えている。

中島会長：実証実験を11月からスタートさせる場合に、事務局案のルートを変更する期間があるのか。変更にとどの程度の期間がかかるかにより、そのルートを審議できるかどうかとも決まってくる。

小菅委員：運行系統の新設の申請と、運賃の届け出を提出してもらうことになる。標準処理期間として2か月程度必要になるので、すぐに変更できるかは難しい部分がある。

事務局：ルートの変更等は運行開始後にも可能であるかご教示願いたい。

小菅委員：現状循環ルートを検討されているので、軽微なものに関しては届け出にも該

当する部分もあると思うが、ご意見にあった放射線状にするなどの抜本的な変更になるとすべて見直しになるので、すぐに対応できるかは疑問がある。他の自治体の例では、今回の会議の前段の会議で、ルートの試案を提示して妥当性があるかどうか意見を聞くことが一般的な流れである。別の手法としては、協議会の分科会やワーキンググループで住民の皆様から意見を集約し、ルートを決めるやり方がある。また、例えば、流動調査、パーソントリップ調査、地区の住民の方の人数を基にルートを検討することや、携帯のGPS情報のデータを集約化し、その路線に反映させるやり方もある。実証ということだが、根拠の部分が気になっていると思う。

中島会長：ルートの変更は簡単ではないと思っていたので、実証運行のルートや運賃を決めて、11月から運行を開始する場合は、来週・再来週までしか時間がない。

爲我井委員：まちづくり協議会の会長に報告し、今月21日の役員会で、今日の内容を報告する。昨日、このルートを全部回ったが妥協はできない。利用者があるの実態調査であり、その点が不十分となるような進め方は、改めて検討してもらいたい。

泉委員：実証実験をやってみるべきだと思う。いろいろな意見があると思うが、実際には6年間走っていないところを新しくやることは大変いいことである。みずき野地区では、公用車を借りた買い物支援を5年間やっているが、回覧で周知しているものの、住民の方は知らない方が多く、この経験からも、如何に住民に周知し、利用してもらうかを考えることが必要である。実証実験をして、乗らないからやめるではなくて、今後はそういったことを変えていくことを検討していけば、この実証実験のルートは問題ないと思う。簡単にルート変更できるとは思わないが、その人たちがどこを使っていくか、意見を吸い上げ、ルート変更を検討するなどのやり方で進めていく方が、今あまり詰めていくと時間がないことを考えれば、実行すべきかと思う。

服部委員：廃止路線を復活する上では、アンケートなどで乗らない原因を分析・精査した上で、例えば、住民の増加や、学校、商業施設の立地などで採算が見込めるなど、何かしらのデータがあって、再開することであれば分かる。以前と変化がない状況で、実証実験ありきで再開するとなると心もとない。

柿本委員：実証運行の位置づけについて、今後、地域公共交通計画を改定していくにあたって、様々なデータ分析や情報収集をすべきだと思う。今の公共交通計画の中でも、モコバスの再編を検討するとしており、その中でいろいろやってみて次につなげていくという考えもあると思う。その意味では、本来は、今話し合った分析をしっかりと、本当にコミバスでいいのかななどを判断した上でやることだと思うが、状況変化などもあるかと思うので、今回のルートをやってみることもあると思う。その上で、周知をしっかりと、乗ってもらう、その結果どうかというのを次の計画につなげていくことは重要である。やはり乗ってもらわないと分析できないところもあるので、そのバランスが大変だとは思う。しっかりと周知をした上で走らせて、その分析で何が問題か、乗らないからダメということではなくて、例えばルートを変える

などチャレンジしていくことはあると思う。

宮野委員：アクロスモールからふれあい道路を通ってジョイフル本田方面に行き、イオンタウンに行くルートをとる方が10分くらい短縮できると思うが、松ヶ丘小学校の先を回るルートにする理由があるのか。

事務局：関東鉄道の路線と重複することを避け、バスが通っていないところをカバーするためである。アクロスモールからジョイフル本田に行くルートだと500m程度は短縮できるが、時間的にはあまり変わらないので、関東鉄道と相談して提案させていただいた。

中島会長：いろいろな意見がでており、非常に難しいが、時間軸がある。実証をやる上では、その地域に根差すように、皆様からも周知していただくことも重要なことである。会長として、難しい部分であるが、やはり実証に向けてやっていくことが必要ではないかと思う。ルートはいろいろあるが、事務局の案でまず実証をして地域の皆様には周知をしていただくことで決をとらせていただきたい。

小路委員：今回の実証実験を検証し、次年度の実証運行の内容を見直すという前提で、最終的に本格運行を目指すのか、その目標、段階、途中の見直しプロセスを明確にする必要がある。今回の実証の結果を踏まえて見直し、この後で議論する業務の中で、守谷市の交通を議論しながら反映・見直しを行い、2年後、3年後の運行形態を決めていくという見通しでよいか。

事務局：今年度だけの実証運行では十分な成果は得られないと見ており、数値を取りたいところはあるが、地域の皆様の足を確保するため、事業を継続していきたい。地区からの意見等を加味しながら、利用者が増えるようであれば、可能な限り運行内容の変更も視野に入れながら対応していく必要があると思っている。現在の公共交通計画を根本的に見直す転換期でもあるため、その計画に落とし込んでいきたい。事務局としては、来年度も予算を要求していきたいと思っており、今回の実証運行で得られたデータを公共交通計画に活用していきたい。将来的には、それぞれの地区に最適な公共交通の形を構築していきたいと思っている。

小路委員：将来的な市の公共交通のあり方や次期計画の見直しに向けて、いろいろ試行しながら最適な形を模索していく段階にあるが、その方向性や考えが十分に共有できていないと思う。個別の実証運行については、全体像における位置づけや将来への繋がりが見えにくいまま、決断を求められる状況である。何を指し、何を議論しているのか、大きな将来目標に向かって、その方向性を明確にした上で、具体的な議論をお願いしたい。

事務局：基本的には、協議会で決めていただくものであり、事務局としては、提案の一つとして案を提示する役割である。計画策定や今後の運行検討をより詳細に進めるため、分科会などの組織も必要かと思うのでよろしく願いしたい。

爲我井委員：実証実験は3月末までの期限とあるが、その後も続くのか。

事務局：実証実験は、複数年と考えている。予算の中では3月31日までしかできないが、予算措置としては、このまま継続して来年度も続けていきたい。

爲我井委員：ルートの変更には2か月かかるとの話があった。高野地区は、利用者が短時間で目的地へ移動できるよう、放射状のルートが最適であり、本宿交差点から鈴塚の交差点を高野方面に戻ってくるルートで行けると思った。循環ルートは、多くの人を集めて、目的地に降ろしていくものだと思う。

小菅委員：住民の皆様の意見が強いという状況であり、難しい局面である。事務局では予算等の都合もあり、進めたいところはあると思うが、公共交通の将来像や、市の交通計画のこの部分に関して議論したいという発言の上で、この路線は人口の調査ベースがあり、想定できるよりよいまちづくりの中で路線を組んだもので、今後の展望を見据えた上で、違う系統の路線を組みながら、交通空白地をなくしていくという説明と資料があればよいと思った。今回は実証運行で、抜本的な路線の見直しも含めた上で、例えば、スーパーや地域の皆様が行くような施設を組み込んだ路線として進めることもある。全体像が見えないことに委員が懸念を抱いているため、今後の条件というわけではないが、事務局において並行して作成していくことで進めることも一つの提案としてある。また、泉委員からの実証運行をやってみて実態として数字を拾うこともあると思った。

爲我井委員：以前のルートは、高齢者にとって坂が多く、バス停まで行くのに苦労するということが、利用しない理由の一つであり、このルートでは利用者は見込めない。

小菅委員：以前あった路線を組み直すことについて、皆さんあまりよく思っていない中で、スケジュール感や社会情勢の変化ということも状況としてはあると思うので、少なからずデータの取得にはなる。また、その路線では利用がないというエビデンスを取ることもできる。前向きな意見としては、路線を組み直していく上でのデータの取り方の一つでもあると思う。

中島会長：今後の市の公共交通の再構築を考える上で、実証実験はやるべきだと思う。高野地区は坂が多くて大変なことは分かるが、高野地区には大きな道路がなく、バスが走れる道路が限られてしまうことが難しい。事務局では、バスが運行できて、関東鉄道の路線がない区間を選定し、今回のルートになっている。今回の実証運行でデータを取り、再構築時にしっかり検討することで、今回の実証を進めさせていただければと思うがいかがか。

事務局：ご意見を頂戴した本宿を経由するルートについて、関東鉄道と協議し、通れるようであれば、そこを含めたルートを検討し、爲我井委員に確認したい。通れないということであれば、事務局の案として、今回はこのルートで行うかどうかを含めて、お諮りいただければと思う。

小路委員：路線バス車両であるが、ワゴンタイプやタクシーなどの別の車両を使えば通れるので、いろいろな選択肢があると思う。選択肢を広げる可能性はあるのか。

事務局：今回の実証運行の案は、関東鉄道と事前協議・調整を行った内容をお諮りしている。運行車両については、協議の中で、より小型の車両がないか伺ったが、関東鉄道が所有し、近々で用意が可能な小型バスである。乗合バス事業ができる事業者は、近隣でも同社しかおらず、委託できるのは同社になるが、

運転手不足の問題を抱える中で、朝夕のラッシュ以外の空き時間であれば、運転手・バスともに回すことが可能ということで、その前提で案を作成した経緯がある。

泉 委 員：みずき野地区では、公用車のワゴン車を借りて、買い物送迎をしているが、近所の方との会話を嫌がる方は多く、その意味では、小型のバスが一番いいと思う。目的地としては、守谷駅や病院であるが、通院先を知られてしまうなどのプライバシーを気にする方が多いと思う。ワゴン車は、そういった住民の方には敬遠されることもあるので、道が狭いからワゴン車にすればいいということは反対である。

服 部 委 員：ご参考までに、タクシーの話になるが、大洗町では 500 円タクシーがある。75 歳以上の方等を対象として、500 円を超えた差額は町が負担する。水戸市や結城市（結城市は 65 歳以上の方を対象）では、1,000 円タクシーの事業を実施している。小美玉市では、市内を 500 円または 1,000 円で移動できるタクシーの実証実験を行っている。結城市の 1,000 円タクシーは、企画政策課が担当する地域公共交通会議で議論した上で、実際の実務（予算）の担当は介護福祉課といった事例もある。検討する際には、タクシーを活用した事業も選択肢の一つになると思う。

小 路 委 員：選択肢が示されていないので、幅広く、多様な選択肢の中で議論していきたい。

事 務 局：バスだけではなく、新たな運行形態の仕組みができないか検討している。例えば、病院や介護施設等の送迎のワゴン車などを、何か良い方法で仕組みを作り、活用させていただけないか検討しており、その方法がまとまれば、バス停方式で、より細い道路にも入っていける。将来像としては、広域的に考えなくてはと思っている。今回は、モコバスとして運行できる部分でどう作っていけるかを、案として出させていただいた内容である。

中 島 会 長：公共交通のあり方そのものが問われている感じがする。タクシーの活用事例の紹介があったが、公共交通と福祉の役割分担を明確にし、それぞれの議論の場を区別する必要がある。公共交通がどこまでを担うべきか、福祉担当が 75 歳以上のような特定層への対応を担うべきかといった議論を含め、今後の公共交通再構築の検討において考えていかないといけない。今回の事務局案について、やるべきなのか、やらないのか、そこを通すか、通さないのか、どこまでだったら事務局としてルート変更が可能なのか、ここで議論が停滞すれば、今後の進展が見込めない。

事 務 局：やってみる必要はあるのではないかというご意見もあったが、地元のご意見も加味し、本宿のところを回したルートで運行が可能であれば変更し、それが車両上難しいということであれば、原案のルートで進めることでいかがか。

佐 野 委 員：愛宕と奥山の区間をずっと通って欲しいと思っていた。今回、この議論をするのは遅いくらいで、高齢者は待ってられない。やるべきだと思う。

廣 瀬 委 員：このルートは、事務局といろいろ相談した結果、安全面を考えて、現時点での最善策として協議したものである。ご意見にあった別のルートについて

は、実際にバスが運行可能か現地を確認しないと判断できないが、今回のルート案作成にあたっては、何度も試走をさせていただいて選定したものであることをご承知おきいただければと思う。

椋澤委員：もう一度検討した方がよいと思う。

爲我井委員：先ほど事務局長から話があったが、本宿・鈴塚経由のルートを検討してもらい、それが駄目だということであれば、提案のルートで進めることでよい。何よりも安全が大事であり、車両が大きいから通れないのであれば、高野地区の協議会には説明する。

浅野委員：この実証実験によって、ルートの意義や、バスではない車両でいけるルートの検討も進むのではないかと思う。高野だけでなく、同地・赤法花、野木崎・大柏の空白地となっている区間もなるべく救える形で走らせ、その結果、バスとしては難しいが、次の手段として、どういう手段が考えられるか、デマンド乗合交通はあるが、何かしらほかの手段がないか、委託業務の中で検討していくこともある。ご意見にあった変更については、案のルートでやっていく中で、次の実証の中に、うまくはめ込んでいくことも検討方法としてはあるのではないかと思う。

中島会長：爲我井委員の意見にあったルートで運行できるかどうかを確認し、できない場合は、案のルートで実証を行うことでいかがか。

**【採決の結果、賛成多数により承認】**

●議案第2号 乗合バス等の運賃を協議するための協議体について

**【事務局から説明】**

○意見・質問等

浅野委員：運賃協議分科会にご協力いただく代表の方として、いないようであれば、会長にお願いすることを提案させていただきたい。

(異議なし)

**【採決の結果、全員賛成により承認】**

**【運賃協議分科会委員（関係する市民の代表）は、中島会長に決定】**

●議案第3号 協議運賃について

**【事務局から説明】**

○意見・質問等

小菅委員：運賃を実際に協議するのは運賃分科会になることから、この議案は報告事項である。運賃分科会で確定した事項を今回の協議会に報告する流れになる。

浅野委員：今回議案になっているが、運賃協議分科会の中で決めることになるので、ご報告させていただく。

**【採決の結果、全員賛成により承認】**

●議案第4号 委託業務の発注について（今後のスケジュール等） [非公開]

●議案第5号 令和7年度予算の補正（案）について [非公開]

5 その他

事務局からの事務連絡

6 閉会